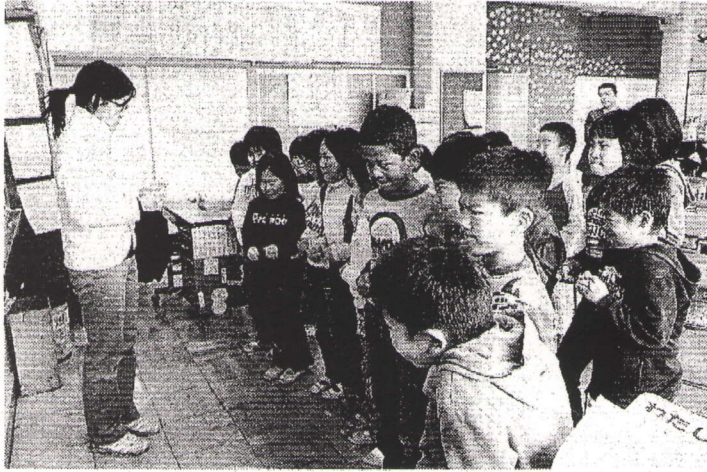


品川で導入2年の「セカンドステップ」

相互の理解↓問題の解決↓怒りの扱い

キレる前に「考える」

怒りを感じた時、「キレ」ずに感情をコントロールする方法を子どもたちに身につけさせようと、品川区教委が取り組み始めて今年で2年になる。採り入れたのは米国で考案されたプログラム「セカンドステップ」。「けんかほだめ」という「しつけ」ではなく、子どもたちが自身が問題解決に向けて考えるコミュニケーション力の訓練だ。レッスンをのぞいてみた。



「怒りを感じた時、顔や体はどうなる？」との問いに、みんなで怒りのポーズ＝品川区西五反田4丁目第四日野小学校で

行動想定し段階的に訓練

セカンドステップは約20年前、米国で開発されて現在は世界17カ国で使われている。言葉によるコミュニケーションを重視し、子どもたちに人間関係を円滑にする「ソーシャルスキル」を身につけさせ、暴力の加害者にならないことを目的としている。日本では01年、普及や実践者を養成する「NPO法人日本子どものための委員会」

社会性を身につけ関係円滑化

セカンドステップは約20年前、米国で開発されて現在は世界17カ国で使われている。言葉によるコミュニケーションを重視し、子どもたちに人間関係を円滑にする「ソーシャルスキル」を身につけさせ、暴力の加害者にならないことを目的としている。日本では01年、普及や実践者を養成する「NPO法人日本子どものための委員会」

「セカンドステップ」

10年度品川の全小学校導入

か、児童養護施設などでも活用されている。日本語版を翻訳した理事の渡辺紀久さんは「キレるのには子どもに原因があるのではない」と語り、



セカンドステップは3章で構成されている。第1章は相手の気持ちを思

だ。橋本先生(30)は子ど

いやり、自分の気持ちを表現する「相互の理解」。第2章は問題の対応策を複数出して、最良だと思うものを試す「問題の解決」。最後の章は、怒りを自覚してどう対処したらよいかを学ぶ「怒りの扱い」だ。

昨年度からセカンドステップを導入した品川区立第四日野小学校(矢渡哲郎校長)。18日、2年1組で「怒り」について学ぶレッスンがあった。第3章の最初の授業

「怒りを感じた時、顔や体はどうなる？」との問いに、みんなで怒りのポーズ＝品川区西五反田4丁目第四日野小学校で

「ちがう」「ちまぐい」「全然、いかな」「子どもたちの意見通り、ためには「X」をつけていたら、結局すべてに「X」がついた。授業の締めくくり。

「怒るのは普通だから怒ってもいいんだよ。でもね、怒鳴っても暴れても解決はしないね。次回は怒った時にどうしたらいいかを勉強しよう」

橋本先生は昨夏、セカンドステップの研修を受けた。当初は、「こんな当たり前のことをやる必要があるのか」と思ったという。しかし今は、効果を実感している。

昨年12月、大きな模造紙1枚にみんなでプログラムを書いている時のことだ。ある子が「込んでいるじゃないからやめる」と言ったら、別の子が「人ずつやったからできるから一緒にやろう」と呼びかけていた。

2学期中に「問題の解決」の章で取り上げた、「一つの物をみんなで使うには？」のレッスンで行ったロールプレートの再現だった。

同じ2年生を受け持つ新井康先生(44)はこう考える。「順番を守るべきことはみんな分かっている。でも、『順番にしよう』と口にするのはまた別。そこを訓練する必要がある」